ISSN 0387-4400

45巻2号

大阪大学図書館報

ニッカウヰスキーの「第1号ウィスキー」（撮影：澁谷あずさ）

関連記事2-7頁

目次

館長就任にあたって
「時空を越えるワームホール」P.1

企画展「国産ウィスキーの父
竹鶴政孝　～はじまりの場所～」P.2-7

電子情報のリモートアクセス P.8-9

NEWS　図書館からのお知らせ P.10

教員著作寄贈の紹介 P.11

「坪井仙太郎の『活力素』」P.12

附属図書館長就任にあたって

時空を越えるワームホール

附属図書館長・理事
（教育担当副学長）

東島　清

附属図書館長に就任し、改めて図書館とは何だろうと考えています。私は理論物理学を研究してきたので、自然哲学の発祥の地であるギリシャ文明には深い敬意を抱いています。同時に、なぜメソポタミアやエジプトでなくギリシャで哲学が生まれたのかを疑問に思います。文字として蓄積された先人の知恵を学び発展させることが不可欠ですが、文字として残すだけだったらギリシャ以前にも色々な文明がありましたが、神官など一部の人だけが文字を使っていたのだと思います。吟遊詩人達に口承されていたホメロスの作品などは紀元前６世紀頃に文書となったらしいので、多分この頃にパピルスが大衆化して少なくとも貴族階級などは記録を残すことができるようになったのでしょう。紀元前６世紀頃にイオニアのミレートスを中心に栄えた自然哲学は、やがてアテネのソクラテス、プラトンやアリストテレスへと花開いてゆきますが、この頃になると若者達もパピルスに書かれた哲学書を読むことができるようになったようです。ソクラテスのような優れた教師の存在も重要ですが、多くの人が先人の思索に触れる事ができるようになったことも、ギリシャ哲学興隆の大きな要因だと思われます。有名なアレキサンドリア図書館のほとんどの書物は火災によって消失してしましたが、残った書籍が後世の学問の発展にかけがえのない貢献をしたことを思うと、もしそのまま残っていたら人類の歴史は大きく変わっていたのではないかという気がしてなりません。

数年前にアテネを訪れた時、ソクラテスが若者に語りかけたというアゴラや、プラトンが作った学校アカデメイアの跡地に立ってみました。数千年の時を経て、柱石だけが残るアゴラには観光客が溢れ、夏草茂るアカデミア址に立つプラトンの肖像はペンキで落書きされていました。建物は朽ち果てても、今なお人々はトロイ王子ヘクトルの父プリアモスの物語に涙し、プラトンの書物に生き続けるソクラテスに思索することを学びます。人は書物によって遠く離れた人々に自分の考えを伝え、数千年の時を越えて後世の人々に語りかけてきました。書物は、あたかも空間・時間にぽっかりと開いた秘密の近道ーワームホールーを通して、生きては決して旅することのできない未来の世界に言葉を届けているかのようです。これからも、数百年、数千年の時を隔てて偉大な知性が出会う時、新たな発見が生まれてくることでしょう。

図書館は書籍の宝庫、時を隔てて先人の知恵と出会う場所です。時空を越えたワームホールが一杯詰まっているのではないでしょうか。

大阪大学附属図書館　企画展

国産ウィスキーの父

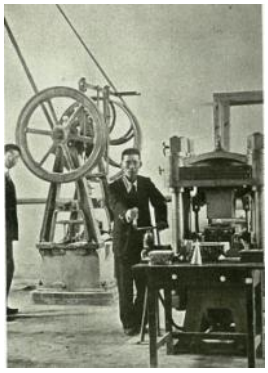
竹鶴政孝

～はじまりの場所～

大阪高等工業学校について

校舎全景（『写真集　大阪大学の五十年』より）

醸造科工場の様子①（『大阪高等工業学校一覧　自大正4年至大正5年』より）



醸造科工場の様子②（『写真集　大阪大学の五十年』より）

1896（明治29）年5月、官立大阪工業学校として大阪市北区玉江町に創設されました。当初の目的は、「職工及職工長ノ養成」にあり、機械工芸科と化学工芸科の2科で構成されていましたが、1897（明治30）年に機械工芸部（機械科）・化学工芸部（応用化学科・染色科・窯業科・醸造科・冶金科）の2部6科となりました。

1901（明治34）年5月に大阪高等工業学校と改称し、その目的も「工業ニ従事スヘキ者ニ必要ナル高等ノ學術及技藝ヲ教授スル」こととなりました。

1903（明治36）年以降には学部の廃止や、学科名の変更、染色科・窯業科の廃止、電気科の増設等を経て、徐々に学校の規模が増大していきましたが、敷地が狭く拡張が困難であったため、1918（大正7）年から1922（大正11）年にかけて東野田への移転が実施されました。

その後、1929（昭和4）年には大阪工業大学に昇格し、さらに1934（昭和8）年に大阪帝国大学と合併し、大阪工学部が誕生しました。

大阪高等工業学校の7つの学科は現在の大阪大学工学部にも受け継がれ、大阪高等工業学校の機械科・冶金科は現在の応用理工学科へ、応用化学科・醸造学科は現在の応用自然学科へ、電気科は電子情報工学科へ、造船科・船用機関科は地球総合工学科へとそれぞれ変化していきました。

入場無料

平成23年
11月1日(火)～11月29日(火)
平日／8:00～22:00　土日／10:00～19:00
祝日／10:00～17:00

大正期、英国スコットランドでウィスキー製法を学び、帰国後は本格的ウィスキー産業のパイオニアとして活躍した竹鶴政孝（1894～1979）は大阪大学の前身の一つ、大阪高等工業学校の卒業生です。

寿屋（現、サントリー）山崎蒸留所を建設し、またニッカウヰスキーの創業者として草創期の日本のウィスキー産業に捧げた彼の生涯を、写真やパネルに加えスコットランド研修時のノートや母校大阪大学ならではの資料とともにたどります。

竹鶴政孝年譜

１８９４（明治２７）年６月
　広島県竹原市竹原町に生まれる

１９１６（大正５）年３月
　大阪高等工業学校醸造科を卒業し、摂津酒造に入社

１９１８（大正７）年７月
　社命により英国へ留学。グラスゴー大学にて応用化学を学習

１９１０（大正９）年11月
　グラスゴー大学での専修を終えて帰朝。その後、摂津酒造における洋酒製造計画立消えのため、同社を退社

１９２３（大正１２）年６月
　寿屋に10カ年契約にて入社

１９２５（大正１４）年６月
　ウィスキーおよび葡萄酒研究のため英、仏国を視察（同年１２月帰朝）

１９３１（昭和６）年８月
　ウィスキーおよび林檎酒研究のため英、仏国に渡る（翌年２月帰朝）

１９３４（昭和９）年３月
　寿屋を退社

１９３４（昭和９）年７月
　大日本果汁㈱を設立し、代表取締役に就任

１９４３（昭和１８）年１１月
　同社取締役社長に就任

１９５２（昭和２７）年８月
　同社の社名をニッカウヰスキー㈱に変更、引き続き取締役社長に就任

１９５６（昭和３１）年５月
　黄綬褒章を授与される

１９６０（昭和３５）年２月
　紺綬褒章を授与される

１９６５（昭和４０）年２月
　北海道余市郡余市町の名誉町民となる

１９６９（昭和４４）年４月
　勲三等に叙せられ瑞宝章を賜わる

１９７０（昭和４５）年５月
　ニッカウヰスキー株式会社取締役会長に就任

１９７９（昭和５４）年８月
　逝去、享年８５。従四位に叙せられ銀杯を賜わる

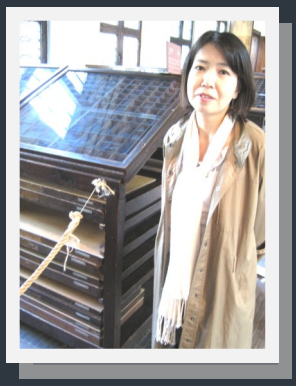
※川又一英著『ヒゲのウヰスキー誕生す』（新潮社）より

ミニコラム

この夏、積年の憧れの地だったプラハを旅した。この街は、中世ヨーロッパの面影が街中に漂っている。この街のストラホフ修道院には中世から受け継がれている図書室があり、見るからに重厚な革装の蔵書が、天井近くまである書架に鎖で繋がれて収められている。まるで、エーコの『薔薇の名前』で描かれている修道院の風景が、そこにはあるのだ。写字生と呼ばれた人々が、神の御業を讃える書物の一文字ずつを丁寧に書き写し、またあるいは背を丸めて一心に極彩色の挿絵を描いている姿をそこに思い描いては、その陰鬱な光景に背筋が少々寒くなる楽しさがあった。

旅の終わり、鉄道を乗り継いでベルギー・アントワープのユネスコ世界遺産プランタン=モレトゥス博物館に立ち寄った。ここは、活版印刷博物館として有名な場所である。１６世紀中葉に成立したこの印刷所は、知識の伝播の手段として出版事業を展開した。ここには、この街の有名な芸術家であるルーベンス、世界地図で有名なオルテリウスやメルカトルも集い、それまで教会に閉じ込められていた「知識」を、出版を通じて世俗の人々に広く流通させる拠点ともなった。

私にとって書物は常に身近なものだが、それの持つ遥か遠い歴史に思いを馳せる、夏の旅であった。



図書館企画課
上原　恵美

解 説

簑輪　陽一郎
アサヒビール㈱ウイスキーアンバサダー

「自由とウイスキーは共に手をとって進む！」　18世紀を生きたスコットランドの国民的な詩人ロバート・バーンズの詩の一行です。ケルト民族がイングランドとの抗争の中で発展させ、新大陸へと伝えていったウィスキーの歴史。世界の五大ウイスキーと云われる中で、日本だけが唯一ケルトと無縁の地でウイスキー文化を定着させました。その基を築いたのが竹鶴政孝という人物です。

◆　◆　◆

1894年に広島県竹原市の老舗蔵元「竹鶴酒造」の三男として生まれた竹鶴政孝は跡取りとして期待され、本人も醸造学に興味があったことから大阪高等工業学校の醸造科を受験し15期生として入学しました。政孝は自伝の中で「その当時醸造科は大阪高等工業にしか無く、造り酒屋の子弟が多く在籍したが卒業後は志願して一年の兵役につき、除隊して家業を継ぐのがお決まりのコースであった。」と述べています。在学中は醸造学の権威であった坪井仙太郎博士のもとで学ぶ傍ら柔道部に籍をおいて稽古に励み、ライバルの大阪府立医科大学などともよく試合を行っていたといいます。この柔道が後に生涯の伴侶となるリタ夫人と政孝との出会いを演出するのですから人生は面白いものです。

◆　◆　◆

1916年3月、卒業を控えた政孝は住吉にあった摂津酒造を訪れ入社を懇請します。指折りの洋酒メーカーであった摂津酒造では大阪高等工業醸造科1期生の岩井喜一郎氏が常務を務めておられ、先輩を頼っての訪問でもありました。造り酒屋の息子がなぜ洋酒づくりを目指すのかを問う阿部喜兵衛社長に政孝は、「それは……新しい酒やからです。清酒は既に伝統ができあがっております。学んだ醸造学を洋酒で試してみたいと思います。」と答え、卒業式を待たずに翌日から働き始めました。当時はアルコールに香味や色をつけたイミテーションウィスキーが造られていた時代ですが、将来の輸入品との競争を憂慮した阿部社長は本格ウィスキーの製造を考えていました。「各分野で列強国と伍して世界の一等国を目指そうというときに、いつまでもウイスキーだけ偽物を造っている時ではない。」と語られたそうです。技師のスコットランドへの派遣を決意された阿部社長は入社間もない竹鶴を指名します。両親を説得するため郷里の竹原まで出向かれもしました。阿部社長こそが竹鶴政孝のウイスキー人生の最初の扉を開いた人物でありました。こうして1918年、政孝は神戸港からアメリカを経由してスコットランドに赴きます。港には阿部社長はもとより、寿屋（後のサントリー）の鳥井信治郎社長、日本製壜の山本為三郎社長（後のアサヒビール初代社長）などの姿もあり、洋酒製造という新しい産業にかける熱気が大阪を包んでいた時代でした。

◆　◆　◆

伝手があっての渡航ではなく、全てが体当たりの研修でした。日本から持参した英文の大阪高等工業学校卒業証明書を提出し、グラスゴー王立工科大学の応用化学科に外国人聴講生として入学を許されます。しかし、大学で勉強するだけならば遠い国まで出かける必要は無く、ウイスキーづくりの現場である蒸溜所での実習への思いが募っていきました。そんな焦燥のなかでジェシー・ロベルタ・カウン（後のリタ夫人）と出会います。リタの弟に柔道を教えるためグラスゴー郊外にあるカウン家を訪れたのが縁となりました。今でこそ国際結婚は珍しいことではありませんが、90年前のことでしたので互いの家族の反対がありましたが押し切って二人は結婚します。

◆　◆　◆

冒頭で述べましたようにウイスキーはケルト人の自由と独立の象徴として発展してきた側面がありますので、外国人青年の実習を受け入れてくれる蒸溜所はなかなか現れませんでした。しかし、持ち前の体当たり精神と熱心さが実って３つの蒸溜所が門戸を開いてくれました。白衣に忍ばせた紙片にポケットの中でメモ書きし、毎晩ホテルに戻って清書した２冊の研修報告書は、その後の日本のウイ

スキー産業の教科書となりました。当時を紹介するエピソードがあります。1962年に来日したイギリスのヒューム副首相が歓迎パーティの席上で語った言葉です。「わがスコットランドに40年前、頭の良い日本青年がやってきて、一本の万年筆とノートで、英国のドル箱であるウイスキー造りの秘密を盗んでいった……」

◆ ◆ ◆

1920年に足かけ3年の研修を終えリタ夫人を伴って帰国。1923年、鳥井信治郎社長に請われ日本最初のウイスキー蒸溜所である山崎蒸溜所を建設。1934年に寿屋を辞し、理想の地である北海道に渡りニッカウヰスキーを興した政孝は1979年に85歳でウイスキー人生の幕を閉じます。その情熱を支えたものは、次々に政孝のウイスキー人生の扉を開いてくれた阿部社長、スコットランドの恩人たち、鳥井社長や山本社長といった方々、とりわけリタ夫人への誓いではなかったかと思えてなりません。（終）

蓑輪　陽一郎（みのわ　よういちろう）

1977年ニッカウヰスキー株式会社に入社。2001年アサヒビール社との営業統合後、神戸支社副支社長、近畿圏統括本部洋酒ワイン部長を歴任。2010年より第4代ウイスキーアンバサダー。

スコッチ文化研究所認定ウイスキープロフェッショナル。日本ソムリエ協会認定　ワインアドバイザー。

Photo Gallery

写真提供：アサヒビール(株)

竹鶴家集合写真、前列中央が当時5才の政孝（1899年）

大阪高等工業柔道部集合写真（1910年頃）

渡英前のポートレート（1918年6月）

25才の誕生日に英国のウィスキー工場で（1919年6月）

着物姿の政孝とリタ（時期不詳）

リタと共に正装で（1931年4月6日）

竹鶴政孝やリタについてより詳しく知りたい方には以下の書籍がお薦めです。入手困難なものもありますが、図書館や古書店で探してみては、いかがでしょうか。

◆竹鶴政孝
『ウィスキーと私』
（ニッカウヰスキー）
※自伝

◆川又一英
『ヒゲのウヰスキー誕生す』
（新潮社）
※ノンフィクション

◆松尾秀助
『琥珀色の夢を見る　竹鶴政孝とニッカウヰスキー物語』
（PHP研究所）
※ノンフィクション

◆早瀬利之
『リタの鐘が鳴る　竹鶴リタの生涯』
（朝日ソノラマ）
※ノンフィクション

◆森遙子
『望郷』
（学習研究社）
※長編伝記小説

◆オリーブ・チェックランド
『リタとウィスキー　日本のスコッチと国際結婚』
（日本経済評論社）
※著名な日英交流史の研究者によるノンフィクション。

ミニレクチャー
＜竹鶴が求めたウィスキー　その魅力と愉しみ方＞

【日時】　11月6日（日）　15:00-17:00
【場所】　大阪大学総合図書館6F図書館ホール
【講師】　蓑輪陽一郎氏（アサヒビール(株)ウイスキーアンバサダー）
【内容】　企画展示に関するレクチャー、ウィスキーに関するトーク。
　　終了後、小規模な試飲会も行います。

展示資料紹介（一部）

大阪高等工業学學校々友會誌

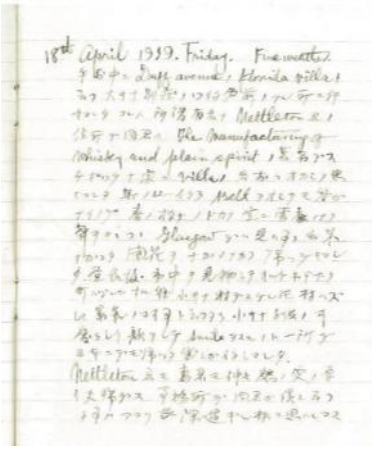
醸造会誌

大阪醸造学会会員名簿

政孝がリタにプレゼントした図書と献辞

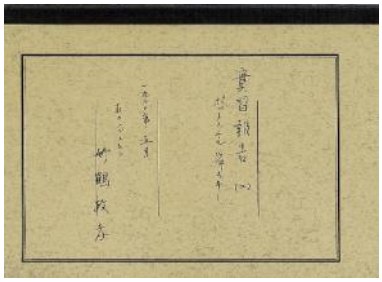
キャンベルタウン住民証

日記

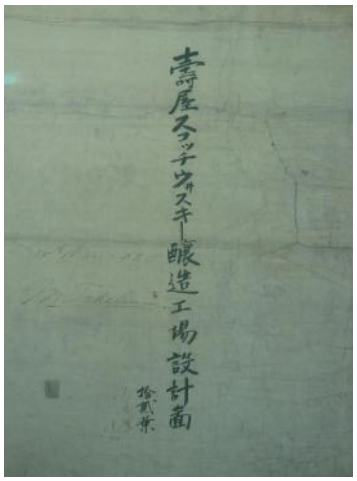


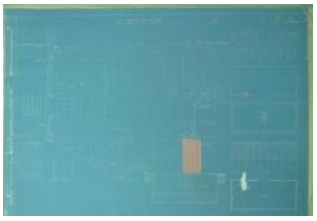
パスポート
（大正7年）

実習報告　全２冊

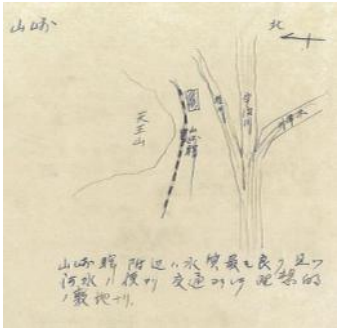


壽屋スコッチウ井スキー醸造工場（山崎工場）設計図

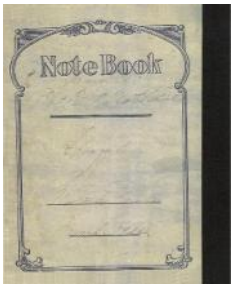




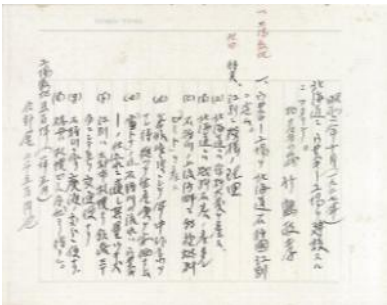
山崎周辺の手書き地図が記されたノート



工場の設計見積が記載されたノート



北海道工場建設計画についてのメモ



ミニコラム

最近読んだ本は、高野秀行著の『腰痛探検家』。

いつものわたしなら、手にとらない。装丁も別に好きな感じじゃないし、タイトルに特に惹かれもしない。

友人宅で勧められて、ごっそり借りてきたホンの一部。

借りてきたし、とりあえず読んでみるかと読み始めると、あら、読みやすい。あ、その気持ちわかるわかる！　とあっという間に読んでしまった。

自分が何かしらピンとこない本は端から除外していたけど、わたし、こうゆうのも意外と読めるのね、と新発見。そうなると話は別。気に入った本が見つかると、その著者のほかの作品も読みたいと思うのが私の性質。

次は『世にも奇妙なマラソン大会』にしよう。理由は…表紙が一番に目についたから（笑）

現在、図書館では特設コーナーを設け、その時々でいろんなテーマを取り上げています。今回、総合図書館は、学生選書。あなたの仲間が選んだおすすめの本、見に来ませんか？

手にとって、立ち読みした一文、もしかしたら挿画に心惹かれるかもしれません。

きっかけなんて、人それぞれ。

最近本から遠ざかっている方、一度図書館に足を運んでみてはいかがですか？

何か見つかるかもしれません。

利用支援課　フロアサービス班
（総合図書館）

西滝　由起

出張先からも

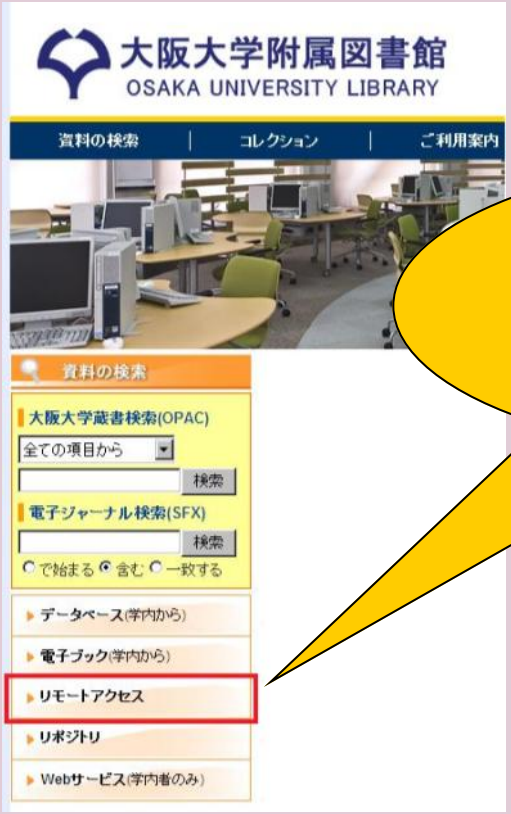
自宅からも

キャンパス外から電子ジャーナルがスムーズに使える！

大阪大学個人ID *1で、自宅や出張先からも簡単にアクセス

大手3出版社（Elsevier, Springer, Wiley）約5,000誌が利用可能！ *2

電子ブックやデータベースも順次利用可能に！



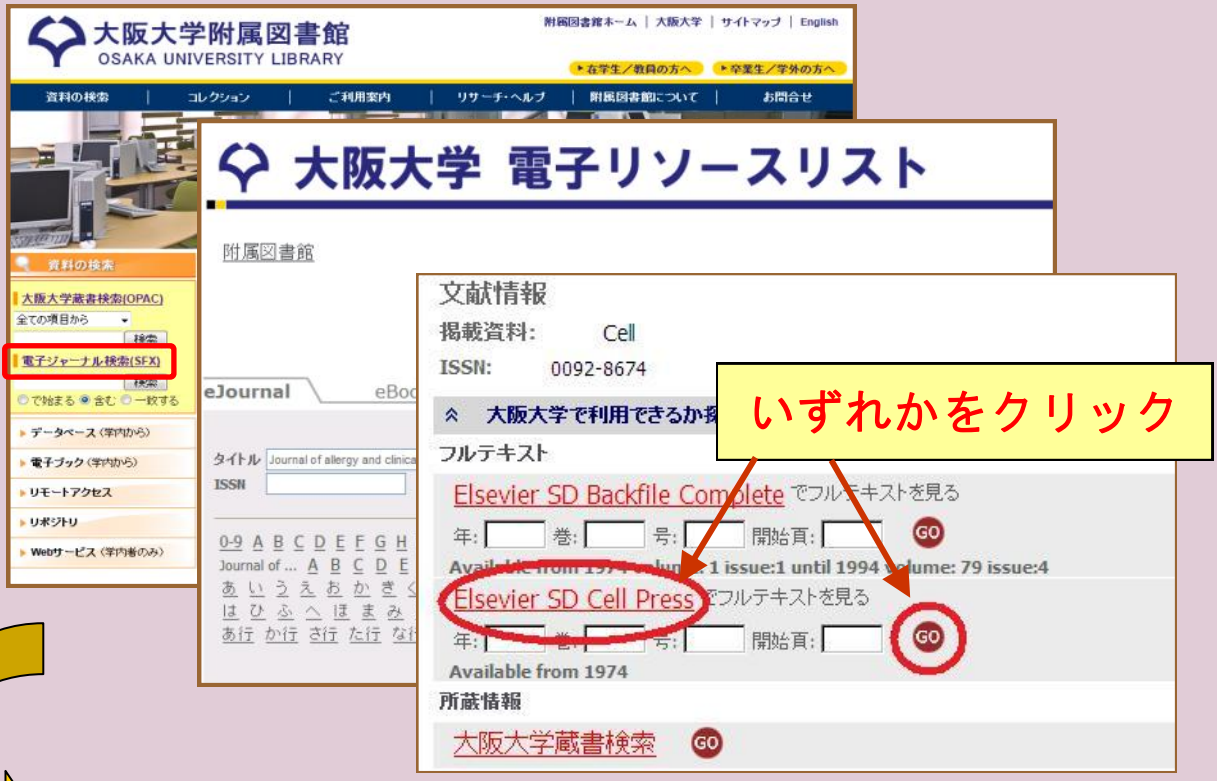
詳しい説明、お知らせ等は図書館ウェブサイトのこちらをクリック

*1 大阪大学個人ID の発行については、「大阪大学 全学IT認証基盤サービス利用に関するFAQ」をご覧ください。
http://ms.auth.osaka-u.ac.jp/faq/

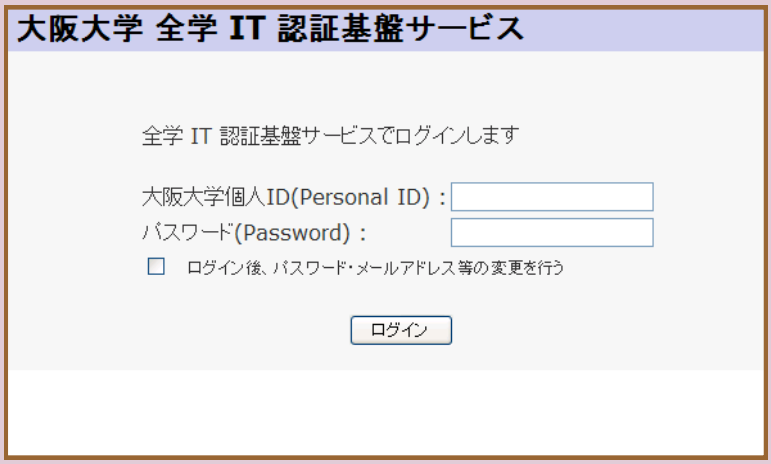
*2 当面、大阪大学ポータルと並行運用となります。
https://portal.osaka-u.ac.jp/

アクセス方法

① 図書館ウェブサイトの「電子リソースリスト」からアクセス



② 大阪大学個人IDで認証



③ 文献を入手！

ご利用に関するお問い合わせは、ejournal@library.osaka-u.ac.jp まで

NEWS☆図書館からのお知らせ

『レポートの書き方講座』のテキストをWebで公開

◆大学教育実践センターの堀一成先生を講師にお迎えし、6月に総合図書館で行われた「レポートの書き方講座」。たくさんの方が参加してくださいました。この講座で使われたテキスト(pdf)が大学教育実践センターHPの「Study-AID　WEB　学びの道具箱」（http://www.study-aid.net/）で公開されています。

総合図書館にキャリア支援図書コーナーがオープン

◆総合図書館A棟2Fにキャリア支援図書コーナーをオープンしました。これまで豊中学生センターにあった書籍と、総合図書館所蔵のキャリア支援関係書籍を置いています。就活本から仕事観を考える本、女性キャリア関連書籍もあります。なお、キャリア支援についてのご相談は、従来通り、豊中学生センターでお受けしています。

留学生オリエンテーション開催［総合図、外国学図］

◆総合図書館では留学生向けのオリエンテーションを9月30日,に開催しました。参加者は156名。英語で図書館説明と館内見学ツアーを、また、日本語で館内見学ツアーを行いました。参加者からは多くの質問も出され、熱心、かつなごやかなオリエンテーションとなりました。◆外国学図書館とAVライブラリーでは9月29日,に、日本語日本文化研修留学生およびMapleプログラム留学生99名に対し、図書館オリ　エンテーションを行いました。職員が図書館内を案内しながら、所蔵する資料や図書館サービスについての説明を行い、参加者からは、外国学図書館企画展示の『14冊の本棚』や、AVライブラリ設置のAV機器の操作方法についてなど、熱心に質問があり、充実したガイダンスとして好評のうちに終了しました。

オープンキャンパス参加［理工学図］

◆理工学図書館は、8月10日に工学部オープンキャンパスに参加しました。当日は朝から夕方まで人が絶えず2,168人もの来館者がありました。◆昨年に引き続き図書館スタンプラリーを行い、全てのスタンプを集めた参加者には理工学図書館オリジナルの栞を配布し、好評を得ました。◆西館2階ギャラリーゾーンでは、「理工学図書館の今と昔」というタイトルで、図書職員が力を注いだパネルと過去・現在の教科書の展示を開催しました。こちらでは来館者が足を止めてパネルを読み、教科書を手に取っている様子が見られました。◆西館1階ラウンジでは、今年度も大阪大学鉄道研究会の展示をしました。

◆たくさんのご来館ありがとうございました。

オンデマンド・ミニレクチャーを開催［総合図］

◆総合図書館では、図書館TA、及び図書館職員によるオンデマンド・ミニレクチャーを行います。日時など詳細は、ホームページや館内ポスターをご覧下さい。◆予定：「Wordの使い方」「Excelの使い方」「PowerPointの使い方」「LaTeXの使い方　初級編・中級編」「Rの使い方」「プログラミングにおける見やすいコーディング方法」「知っているようで知らない図書館の使い方」

ビブリオバトル@まちかね祭に協力

◆Scienthrough（本学公認学生団体）主催での「ビブリオバトル@まちかね祭」で「教授オススメの本」という展示企画があります。この展示企画に、附属図書館からも100冊余りの蔵書を提供します。会場での貸出はできませんが、後日、総合図書館の特設コーナーでご紹介する予定です。◆「ビブリオバトル@まちかね祭」の詳細は、Scienthroughのホームページをご覧下さい。http://scienthrough.qee.jp/2009/2011/09/machikanebiblio2011/

学生購入希望図書の枠を拡大［総合図］

◆総合図書館での学生購入希望図書の枠を拡大しました。◆10冊または4万円まで（ただし、同一年度内、同一申請者で）◆申込書は総合図書館メインカウンター前にあります。どうぞご利用ください。

TA図書館ツアーを開催［理工学図］

◆理工学図書館では、TAの在席時間中はいつでも、図書館ツアーを実施しています。事前予約は不要で、お一人でもご案内します。英語、フランス語、アラビア語、ベトナム語、中国語で対応。◆詳しくはホームページをご覧ください。

教員著作寄贈の紹介

（2011年7月1日～2011年9月30日　受領分）

大野義照（接合研）
・P-29
・P-29第1～4次遠征の記録

中山康雄（人科）
・規範とゲーム：社会の哲学入門

堀江新二（言文）
・さくらんぼ畑

飯野守男（医）
・死因不明社会2 なぜAiが必要なのか

渡辺純二（生命）
・物理学入門（シリーズ生命機能 4）

松行輝昌（学際C）
・ソーシャルイノベーション

菅野盾樹（名誉教授）
・知覚の哲学

田野村忠温（文）
・コーパスとしてのウェブ
・コーパスの作成と活用

岡田光正（名誉教授）
・群集安全工学

※敬称略

ミニコラム

ILLというのはInterLibrary Loanの略で、他機関から論文のコピーを取り寄せたり、図書を借りたりするサービスのことです。私たちILL受付担当では学外からの取り寄せ依頼への対応を行っています。

生命科学図書館は、国より、医学・生物学系の外国雑誌を重点的に集める図書館に指定されているので、この分野の外国雑誌の所蔵量は全国トップクラス。毎日、大学や病院などから、大量に依頼がやってきます！　1日100件以上依頼があることもしばしば。担当メンバーで力を合わせて、資料を待っている学外のみなさまにお送りしています。

「この論文、電子ジャーナル見られないし、紙の雑誌も阪大にないみたいだな」っていうときも、お気軽に図書館へご相談ください。全国の図書館同士のネットワークがきっとあなたのお役に立てるはずです☆

資料の取り寄せについて詳しくはHPの下記の箇所をご覧ください。

ご利用案内 ＞ 在学生・教職員の方の図書館利用 ＞ 図書・文献複写取り寄せ

吹田地区図書館サービス課
（生命科学図書館）
藤江　雄太郎

OUKAイメージ・キャラクター
桜華理帆゜（おうかりぽ）です。

「OUKA」は大阪大学機関リポジトリの愛称です。

企画展こぼれ話

坪井仙太郎の「活力素」

竹鶴政孝の師、坪井仙太郎の主たる業績のひとつに「活力素」の発明がある。

今日では忘却の彼方に消えた幻の滋養強壮剤。原材料は、その名も「坪井菌」と称する酵母の一種。ビール酵母由来の滋養強壮剤はよく知られるところだが、「活力素」もそれと似たようなものだったと思われる。

その効能説明がいたって面白い。この活力素、「身体を構成する細胞中のプラスマの減損を防ぎ白血球の活動を強め、血液を浄化する」（『婦人画報』256号、昭和2年1月）ことにより、「慢性胃腸病、肺結核、心臓病、腎臓病、脚気、便秘、月経不順、リューマチス、ヒステリー、喘息、性欲欠乏等の諸症」（『婦人画報』259号、昭和2年3月）に利く万能薬という。おまけに、「醤油の黴止にも有効」（『婦人画報』239号、大正14年8月）となれば、主婦にもウケようもの。

製造販売は、坪井の甥で醸造科卒業生の坪井泰吉（明治41年卒）が手がけた。「活力商会」（のち「坪井活力商会」と改める）と名乗り、東京都京橋区五郎兵衛町（現在の八重洲2丁目）に事務所をかまえ、大正期から昭和初期にかけて繁盛したようである。毎月のように新聞や雑誌へ広告を出したおかげで「活力素」という言葉も広まった。ついには「活力素」（蔵原惟人の妻でプロレタリア作家の中本たか子の作品）と題する小説さえ生まれた（内容的には無関係）。

壜入り粉末で4種類発売され、価格は30ｇ2円（約1か月分）／120ｇ7円（約4か月分）／225ｇ13円（約7か月分）／450ｇ25円（約15か月分）であったが、当時奢侈品のレコードSP盤が1円50銭（大正3年頃）であるから相当高価なものであることに間違いはない。それでも、売れ行きが好調だったからなのか、大正15年には、錠剤（200錠2円20銭）の販売を開始、昭和2年には30日分1円50銭／4ヶ月分5円50銭／8ヶ月分10円と、価格を下げてラインナップを一新した。

さて、実際の効き目が気になるところだが、販売を始めたばかりの明治末期、評判を耳にして、その効能を調べた人がいた。大阪桃山病院の初代病院長を務めた医師白江規矩三郎である。彼は『第7回日本内科学会会誌』（明治43年）に発表した「実地家ノー神経薬トシテ使用シ得ベキ新物品（活力素）ノ成績私見」という報告で、47人のうち31人について「活力素」のおかげで神経衰弱や脚気の病状改善があったと述べ、その効果を説いている。

なお上記の報告には次のような面白いエピソードも添えられている。「活力素」の効果を宣伝したいと思い、白江が坪井に「電話ニテ同君ニ相談セシニ、製法ハ秘密ナリ、広告モセザレバ、学会ニテ説明セズ」との返答を受けた。それが為に、白江は報告の標題を「活力素云々」としなかったとのことである。宣伝してあげるといわれると、そんな余計なことを、と断るあたり、坪井の天の邪鬼ぶりが垣間見えて面白い。

何にせよ、幻の「活力素」を一度は目にしてみたいものである。

（図書館企画課　赤井規晃）

坪井 仙太郎（つぼい せんたろう）

1861（文久元）年3月15日美濃国池田郡脛永村(現在の岐阜県揖斐郡揖斐川町脛永)に酒造業坪井佐七の三男として生まれる。大阪英語学校、東京大学予備門を経て、工科大学応用化学科に進学。1889（明治22）年に大学を卒業し、日本舎密製造会社や別子銅山に勤めた後、1896（明治29）年8月、新設された大阪工業学校醸造科の初代教授に招かれた。以後退職するまでの25年、醸造科主任教授として数多くの人材を世に送り出した。1921（大正10）年6月に退職、その半年後に病気のため亡くなった。

ちなみに脛永の坪井家には、仙太郎につながる国枝坪井家と、江戸の蘭医坪井信道につながる織田坪井家の二つの流れがあって、後者は関ヶ原の戦で負けた岐阜城主織田秀信の遺子を家臣坪井佐治兵衛が救出して匿い、坪井姓を名乗らせ系譜を秘したことに始まると伝えられている。織田坪井家の坪井信道は緒方洪庵の師として知られるが、その洪庵が適塾門下生に迎えた坪井信立という人物は仙太郎の叔父にあたるという。坪井の家系を通じて、大阪大学の源流の二つである、適塾と大阪高等工業学校には、意外な繋がりがあったのである。

坪井仙太郎の肖像（『百年誌 大阪大学工学部醸造・発酵・応用生物工学科』より）

編集後記

◆9月中旬に北海道の余市蒸留所を訪ねました。蒸留所内では、昔ながらのウィスキー作りを見学したり、竹鶴のウィスキー作りに対する情熱を感じさせる数多くの展示物を目にしました。◆附属図書館の展示では彼の業績を、大阪大学が所蔵する資料とともに振り返っています。みなさんの大先輩がどのような人生を歩み何を成したのか、興味深い展示になっていると思います。◆まちかね祭の期間中（11月6日）にはイベントもありますので、是非ご参加ください。

（澁谷あずさ）

VOL.45 NO.2 通巻177号
2011年11月1日 発行
編集 大阪大学附属図書館
郵便番号 565-0043
大阪府豊中市待兼山町1の4

WEB : http://www.library.osaka-u.ac.jp
E-mail : kohowg@libray.osaka-u.ac.jp
twitter : @OsakaUnivLib